

# 道連ニュース

2013年8月号 No.86

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

## さようなら原発署名を取り扱うことを議決しました

～道連第2回理事会が開催されました～

8月8日、第2回理事会が二川悟理事（生活クラブ生協専務理事）の議事進行で、開催されました。確認されました報告事項は①一般活動経過報告②2013年度第一四半期決算報告③事業提携 PJ 報告④平岡 PJ 報告⑤協賛・後援報告⑥北海道他からの通知報告⑦北海道・東北地連報告

議決事項は①2013年度役員報酬②大学生協連北海道事業連合との業務委託契約③大学生協連北海道プロ

ック理事長会議共催④さようなら原発署名活動⑤道連活動見直しアンケート実施⑥次回理事会運営の件、審議事項として① TPP 問題②電気料金値上げ問題③消費税問題④灯油問題⑤来年度総会についてでしたが、審議事項の来年の総会については、当日会員生協の多くが関わっている「労福協」の記念行事と重なっており、日程はそのまま時間は調整することで確認されました。

## 「ポスト IYC 講演・役職員学習会(仮)」開催を決定

8月8日開催の、第2回理事会におきまして、「ポスト IYC 繋がる講演会」を下記要領で開催する事を決定しましたのでお知らせいたします。尚、JAさん等との調整が残っており、詳細の変更はまだありますが、日時・会場・講演テーマ・講師は決定です。役職員の皆さんの参加をお願いいたします。

みんなで働く、みんなで生きる

## 協同労働を社会の力に

～ TPP 問題にも触れて～

日時：10月3日(木)13時～15時

場所：KKRホテル(札幌市中央区北4条西5丁目)

講師：永戸祐三氏(日本労働者協同組合連合会理事長)

参加費：無料

問い合わせ・申し込み：北海道生活協同組合連合会(担当・川原)

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

## TPP 中央要請に行ってきました ～前濱道連事務局次長が上京～

7月23日に日本がTPP交渉に参加したことに対し、8月1日、高橋はるみ知事を筆頭に道議会議員、農林水産業関係団体、消費者団体等でTPP協定に関しての要請に行ってきました。要請は二階俊博自民党総務会長代行、林芳正農林水産大臣、公明党本部に対して行いました。内容は十分な情報提供と、重要品目の関税維持、道民生活への悪影響が生じると見込まれる場合の交渉からの脱退を含めた万全の対応を求めるものです。公明党本部では北海道生協連からも、消費者として食の安全・医療・ISD条項など不安に思っていること、「守りぬくべき国益」が1つでも守られないと分かった時は速やかに交渉から脱退すること、交渉内容は秘密と言うが私達の生活に係ることなのでできるだけ情報提供し、北海道で説明会を開催して欲しいこと

を要請しました。情報については開示、提供に努める。交渉内容については懸念も利益も含め国益を最大化するよう努めるなどの回答がありました。ブルネイでの交渉も終わりましたが、メディアの報道など注視していくべきと思います。また国民に対して交渉内容の説明会を開催するよう求めていくことも大切だと思います。

9月7日に札幌エルプラザで行われるエルプラ祭りでは「TPPを考える市民の会」のブースも出展されますのでぜひ足を運んでみてください。



林農林水産大臣への要請

## コープさっぽろ 平和のスタディーツアー in ヒロシマ&ナガサキ

8月4日ヒロシマ原爆の日・8月9日ナガサキ原爆の日にあわせて、今年も被爆地ヒロシマとナガサキへ、組合員さん3名と、全道で公募した子どもたち（高校生3名・中学生3名・小学生6名）12名を派遣し、原爆による被害を次世代へ伝えていくための学習にとりくみました。特に12名の子どもたちが参加したナガサキのスタディーツアーでは、原爆資料館見学や被爆の証言を聞く講演会に加え、現地長崎の子どもたちとの「平和の交流会」を開催することができました。長崎ラコープのご好意で実現したこの交流会は、被爆遺稿の城山小学校を会場に、北海道と長崎の子どもたちが「平和ってなんだろう」をテーマに率直な意見を発表しあい、平和を学びあう場としてとても良い機会になったと思います。

これら平和のスタディーツアーの派遣費用は、コープのお店各店の店頭募金と、宅配注文書による募金、

事前に道内各地で行われたパネル展などでの募金活動にて賄われました。ヒロシマ・ナガサキ派遣後には、全道各地区において、平和の報告会が計画されております。ヒロシマ・ナガサキにて体験し感じ取った原爆の惨状や戦争の被害を、派遣された子どもたちが多くの組合員さんに語り継ぎ、平和の尊さと核兵器の恐ろしさを訴えてまいります。



長崎・北海道子ども平和交流会



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

### 北海道医療生活協同組合 『改めて平和の尊さを学ぶ』

8月6日の「戦争の記憶を語り継ぐつどい」で、4人の語り手の方々の体験談を聞き、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを思い知らされました。

とくに、昭和6年生まれの女性は、女学校1年生の当時、学校に行っても勉強はなく、竹やり訓練と防火訓練、落下傘づくりに追われる毎日だったこと、そして、昭和20年3月10日の東京大空襲では、B29爆撃機の大編隊が投下する爆弾から命からがら逃げ惑ったこと、下町一帯が



82歳の佐藤文字さん

焼け野原となり、人も物も黒こげになっていたこと、その後、戦火からのがれるため、お姉さんと二人でやっとの思いで岩手県に疎開したこと、など生々しく話されました。

先の大戦の中では、各都市への空襲や沖縄戦、広島・長崎への原爆投下などによって、軍人ばかりではなく、子供やお年寄りを含む多くの民間人が犠牲になったほか、多くの文化遺産が破壊され、人権や民主主義、教育、思想などが弾圧されたことも、それぞれの語り手から学び取ることができました。

戦後68年、改めて平和の尊さを学ぶとともに、憲法とりわけ戦争放棄をうたった第9条の改「正」も視野に、国防軍や集団的自衛権の行使など、再び戦争のできる国へと向かっている政治状況に歯止めをかけなければ、との気持ちを強くした一日でした。

### 生活クラブ生協 『ヒロシマ・ナガサキ平和活動の取り組み』

生活クラブ生協文化委員会では、被害と加害の両方の視点に立ったヒロシマ・ナガサキ平和行動を組み立て、実行してきました。今年も20回目の記念の会となり、今回も元気に組合員2名、大学生1名、高校生3名、事務局2名、計8名で68回目の夏となる長崎を訪れてきました。長崎では8月9日の「被爆68周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加し、田上富久長崎市長の国の核政策への批判を直接耳にすることができ、その言葉の重みを感じることができました。また前回の平和行動では実現できなかった軍艦島（島全体が軍艦のように見える端島という島。富国強兵の名のもとに、朝鮮・中国からの労働者も強制的に連れて来られて働かされていた）への上陸を果たすことができました。かつては東京以上の人口密度を誇ったこの島も石炭政策の転換にともなって現在は無人島になり、いわば捨てられた島となってしまいました。廃墟

となった現在、端島に立つことで、かつてのにぎわいと、ここで働いた労働者の辛苦を思い起こすことができました。

9月には報告集を作成し、報告集会を開催します。憲法改正の話がでていいる今だからこそ、改めて平和の尊さを実感する平和行動となりました。あの日あの時に何があったのか。その時間に、その場所に立つことで、何を感じ取ることができたのか。今回訪問した若い参加者、そして組合員はそれぞれの想いを胸に札幌へと帰ってきました。



初上陸した軍艦島